

第三者評価の受審実績（過去 5 年間）		平成 21、22、23、24、25 年度	
取材の対象年度	平成 24 年度	評価手法	標準の第三者評価

【取材メモ】



取材の視点

- ・第三者評価受審の目的、経緯
- ・事業評価（自己評価）のプロセスで得られた気づき
- ・利用者調査、職員の自己評価及び評価機関による評価の結果から得られた気づき
- ・改善に向けた取り組みとその成果、など

■改善の取り組みとその成果②～職員間のコミュニケーションの活性化と夜間体制の充実

小舎制を敷く当事業所では、職員の精神状態が子どもに与える影響力の大きさを自覚し、職員が問題を一人で抱え込むことのないよう、適切なタイミングと方法で報告や連絡、相談を行うことができるような仕組みの整備に力を入れています。また、職員同士がフラットな立場で話し合える関係性を大切にしており、毎週 1 回、全職員が集まったの会議を継続しています。民主的な組織運営のもとで職員間のコミュニケーションの活性化を図ることにより、ややもすると閉鎖的になりがちな職場環境、子どもの立場で言えば生活環境を風通しのよい状態に保つことに取り組んでいます。

また、利用者の抱えるデリケートな問題等に対して、職員が個別に対応することが求められる場面が多くなっています。特に夜間の職員体制に関しては、各グループともなるべく複数の配置となるよう、取り組みを進めてきました。手厚い職員配置と、希望する休暇の取得という矛盾しがちな課題に対応するため、各グループに任せていた月の勤務表の作成を今年度より主任が行うこととし、さらに専門職の応援体制の強化を図ることにより、現在ではほとんどのグループで夜間の 2 人体制が可能となりました。